

【登壇者プロフィール】

白川琢磨（シラカワ タクマ）

1953年、香川県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。1983年、同大学院社会学研究科博士課程単位修得退学。論文博士（人間環境学）九州大学人間環境学府。カリフォルニア大学サンディエゴ校・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校客員研究員、四国学院大学社会学部・福岡大学人文学部教授を経て、福岡大学名誉教授、中山身語正宗教学研究所（瀧光徳寺）顧問。日本宗教学会理事・日本民俗学会理事。著書「英彦山の宗教民俗と文化資源」木星舎、「顕密のハビトゥス」（木星舎）「豊前神楽と祈りのくかたち」旧上毛郡を中心として」、他多数。

福永晋三（フクナガ シンゾウ）

1952年、福岡県鞍手郡宮田町（現宮若市）生まれ。1975年、國學院大學文学部文学科（漢文学専攻）卒業。角川書店辞書教科書部、東京都立高校に勤務後、四十代半ばから万葉集研究のため、古事記・日本書紀等の古代史の研究に着手。古田武彦との共著『九州王朝の論理』（明石書店）著書『真実の仁徳天皇－倭歌が解き明かす古代史』（不知火書房）『『魏志倭人伝を解く』序章－邪馬台国田川説の濫觴－』（同時代社）「神功皇后紀を読む会」を主宰全国邪馬台国連絡協議会九州支部副支部長・福岡県本部長

エバレット・ブラウン

1959年、アメリカ、ワシントン生まれ。湿板写真家。一般社団法人京都会所の代表理事。大学院大学至善館教授「JAPAN FORUM」代表。元 epa 通信社日本支局長。元ブラウンズフィールド代表。14歳でプロの写真家の道に入り、16歳でユージン・スミス氏との出会いをきっかけにフォト・ジャーナリストになることを決心。アメリカで文化人類学、日本、中国で代替医学などの勉強を経て世界の六大陸50か国以上を旅する。1988年から日本定住。タイム、ニューズウィーク、ニューヨーク・タイムズ、ロンドン・タイムズ、ル・モンド紙など国内外の主要なメディアで定期的に作品を発表している。著書に『俺たちのニッポン』（小学館）、『ガングロガールズ』（Koennmann）、共著に『生きてるだけで、いいんじゃない』（妻である中島テコとの共著・近代映画社）、『日本力』（松岡正剛氏との共著・パルコ出版）、、『Japanese Samurai Fashion』（赤々舎出版）、『失われゆく日本』（小学館）、『日本の面影』（Harvest 出版）、『先祖返りの国へー日本の身体感覚ー文化を読み解く』（晶文社）、『京都派の遺伝子』（淡交社）ほか多数。文化庁長官表彰被表彰者。

高千穂有昭（タカチホ アリアキ）

英彦山神宮禰宜。いにしへの修験道の復活を志し、英彦山をお山で守り続けています。

岩本教之（イワモト ノリユキ）

添田町の文化専門官で英彦山愛の深い研究者。英彦山情報の生き字引。

野見山広明（ノミヤマ ヒロアキ）

株式会社カグヤ代表、一般財団法人徳積財団副理事長。現在、英彦山守静坊の甞生に取り組み、徳を磨き懐かしい未来を実現するため、暮らしフルネスを実践する。